AsiaNet 99368

**ステーキホールダー・フーズ（R）がうま味ミート社との共同研究で最大100万ドルの助成金を獲得し、構造化された養殖魚製品を3Dバイオプリント**

*＊3Dバイオプリンターとの協業は、2023年に向けた同社の事業化戦略にとって飛躍的な前進*

レホヴォト（イスラエル）, 2023年2月10日 /PRNewswire/ -- **ステーキホールダー・フーズ**（ナスダック：STKH）は、シンガポールの養殖魚介類会社うま味ミート社と共同で、3Dプリントで構造化したウナギとハタの製品を開発するために、初の助成金を受け取りました。この取り組みは、シンガポール・エンタープライズ・シンガポール（ESG）とイスラエル・イノベーション・オーソリティ（IIA）の協力によるシンガポール・イスラエル産業研究開発財団（SIIRD）の助成金によって実施されています。

ステーキホールダー・フーズとうま味ミート社の提携は、養殖肉が規制当局の認可を受けている世界で唯一の国での市場参入という、ユニークな機会を提供するものです。本共同研究は、構造化された養殖魚製品を製造するための拡張性のあるプロセスを開発することを目的としています。ステーキホールダー・フーズは、先日仮特許出願した新開発の調理済み魚のプチプチとした食感を模倣する技術を使用する予定です。

なお、プロジェクトの最初の試作品である構造化ハイブリッドハタ製品は、2023年第1四半期までに完成する予定です。本製品は、ステーキホールダー・フーズ独自の3Dバイオプリント技術と、うま味ミート社の細胞用にカスタマイズされたバイオインクを使用してプリントされます。

**ステーキホールダー・フーズのビジネス開発担当副社長であるYair Ayalon氏は、次のように述べています。**「産業界との連携は、当社の長期的な事業戦略上、非常に重要な要素です。うま味ミート社との提携は、当社が最近出願した魚の食感に関する特許に続くもので、イスラエルとシンガポール政府の共同イニシアチブによって支援されていることから、特に意義深いものです。当社はその一員であることを大変誇りに思います。」

**うま味ミート社のCEO兼ファウンダー、Mihir Pershad氏は、次のように述べています。**「我々の養殖魚介類に関する深い知識と経験と、ステーキホールダー・フーズ社の革新的な3Dバイオプリント技術を組み合わせることができ、非常に感激しています。この提携は、海洋生態系を保護し、消費者の高まる需要に応えるために卓越した高品質の水産物を提供する、より持続可能な新しい食糧システムという我々の構想を推進するのに役立つと確信しています。」

**ステーキホールダー・フーズについて**

株式会社ステーキホールダー・フーズ（旧社名：株式会社ミアテック3D）は、培養肉革命の最前線に立つ国際的な深化技術食品企業です。2019年に活動を開始し、ナスダック・キャピタル・マーケットに「STKH」（旧：MITC）のティッカーで上場しています。ステーキホールダー・フーズは、イスラエルのレホヴォトとベルギーのアントウェルペンに工場を持ち、最近、米国にも活動を拡大しました。

同社は、工業化された農業や漁業に代わるものとして、牛肉、鶏肉、豚肉、水産物のさまざまな製品を、原料としてもホールカットとしても生産する屠殺不要の解決策を開発しているのです。ステーキホールダー・フーズは、国連グローバル・コンパクトの一員として、食糧安全保障の強化、二酸化炭素排出量の削減、水・土地資源の保全など、国連の持続可能な開発目標（SDGs）に示された課題を支援するために行動することを約束しています。

詳細については、[**https://steakholderfoods.com**](https://steakholderfoods.com/) をご覧ください。

**うま味ミート社について**

うま味ミート社は、美味しく、栄養価が高く、手頃な価格の養殖魚介類を生産することで、私たちの健康、海、そして未来にとってより良い、持続可能な魚介類の未来を開拓しています。うま味ミート社の養殖魚は、従来の魚介類と同等の栄養を持ち、重金属や抗生物質、微小プラスチックなどを含まないおいしい料理を提供します。

また、うま味ミート社は、「XPRIZEフィード・ザ・ネクスト・ビリオン」大会の準決勝、「Fi グローバル・スタートアップ・イノベーション・チャレンジ」の決勝進出、フォワード・フーディング社の2021年フードテック500リストの一員、「2021年世界グリーンビジネス賞」の新鋭水産会社・東南アジアのベストに認定されています。

**SIIRDについて**

シンガポール・イスラエル産業研究開発財団（SIIRD）は、エンタープライズ・シンガポール（ESG）とイスラエル・イノベーション・オーソリティの協力により、シンガポールの企業とイスラエルの企業によるさまざまな産業分野での共同研究開発を促進、促進、支援することを目的としています。SIIRDは、シンガポールとイスラエルの研究開発を促進するために、シンガポールとイスラエルに拠点を置く企業のR&Dパートナー検索を支援し、両者間の共同研究開発プロジェクトやパイロットプロジェクトに最大100万USドルの資金を提供することを目的としています。

**将来予想に関する記述**

*本プレスリリースには、ステーキホールダー・フーズの事業、運営、財務実績および状況、ならびにステーキホールダー・フーズの事業運営および財務実績および状況に関する計画、目標、期待に関する将来的な記述が含まれています。* *過去の事実でないものは、将来予想に関する記述とみなされる可能性があります。* *将来予想に関する記述は、将来の出来事に関するステーキホールダー・フーズの現在の見解を反映したものであり、仮定に基づき、時間の経過とともに変化する既知および未知のリスクおよび不確実性、ならびにステーキホールダー・フーズの実際の結果、業績、成果を、将来予想に関する記述で明示または暗示された将来の結果、業績、成果とは大幅に異なるものにするその他の要因によるものです。* *将来予測に関する記述には、将来の結果、業績または成果を予測、予想、示唆または暗示するあらゆる記述が含まれ、通常、「想定する」、「考えられる」、「推量する」、「予測する」、「目的とする」、「計画する」、「企図する」、「可能性がある」、「あり得る」、「ことがある」などの語句で識別されますが、これに限定されるものではありません。* *ステーキホールダー・フーズが商業的な販売を開始する前に重要な追加作業を必要とする、開発中の培養肉製造技術の成功に関するステーキホールダー・フーズの予想が含まれますが、これらに限定されません。長時間かつ複雑なプロセスを伴う三次元食肉製造を含む培養肉製造技術に関連するステーキホールダー・フーズの研究開発活動、第三者の知的財産権および専有技術を侵害、不正利用、またはその他の形で違反することなく知的財産権を取得および行使し事業を運営するステーキホールダー・フーズの能力、ならびに2022年3月24日に証券取引委員会に提出したステーキホールダー・フーズによる2021年12月31日に終わる会計年度の年次報告（フォーム20-F）に記載されているものを含むその他のリスクと不確実性などです。* *新たなリスクや不確実性が随時発生する可能性があり、その発生や影響についてステーキホールダー・フーズが予測することは不可能です。* *ステーキホールダー・フーズの将来予測情報および声明に影響を与える要因の1つ以上が正しくないと判明した場合、ステーキホールダー・フーズの実際の結果、業績、成果は、本プレスリリースに含まれる将来予測情報および声明に明示または暗示されたものと大きく異なる可能性があります。したがって、当社は、その将来予測情報および記述を過度に信頼しないよう注意を喚起します。ステーキホールダー・フーズは、法律で特に定められている場合を除き、書面または口頭を問わず、実際の結果または将来予想に関する記述に影響を与える要因の変化を反映するために、将来予想に関する記述を修正または更新する義務を負いません。*

ロゴ - <https://mma.prnewswire.com/media/1871733/Steakholder_Foods_Ltd_logo.jpg>

**プレス連絡先：**

Maissa Dauriac   
レーニア・コミュニケーションズ   
[mdauriac@rainierco.com](mailto:mdauriac@rainierco.com)

**投資家向け連絡先：**

Joseph Green   
エジソン・グループ  
[jgreen@edisongroup.com](mailto:jgreen@edisongroup.com)

Ehud Helft   
エジソン・イスラエル  
[ehelft@edisongroup.com](mailto:ehelft@edisongroup.com)

ソース：Steakholder Foods Ltd.

（日本語リリース：クライアント提供）